

# MICE施設機能向上に関する論点整理

## 1. MICEを推進する意義

### (1) MICEの効果

主なものに、消費誘発効果など経済波及効果、税収増効果及び雇用創出効果がある。展示会の契約誘発効果については、契約が実際に履行されたか継続的な調査が必要となる。また、定量的な算出が困難ではあるが、国際競争力の向上効果、都市ブランド力向上効果、新産業・イノベーション創出効果があげられる。

### (2) MICEに対する公的関与

1. (1)に記載のとおり、MICEの効果には外部性（都市競争力向上、イノベーション創出等）があり、公的な関与に一定の合理性が認められる可能性がある。また、MICE施設を産業インフラと位置付けて整備を進めるべきとの指摘もあり、実際に国家戦略としてMICE施設を整備している国も存在する。一方で、MICEをソフトとハードの観点から一体的に推進する体制が日本にないという問題がある。今後MICE施策を推進するためには、展示会・国際会議における客観的なMICEの意義についての国民的合意形成が重要であり、その際には国が関与すべき観点・対象及び地方公共団体との役割分担を整理する必要がある。

## 2. MICEの需要（新規誘発可能性）

### (1) 国際会議・展示会の国内開催動向の今後の見通し

アジアでの開催は近年増加傾向にある。なお、国内開催需要の動向について今後具体的に検討する際には以下の点について留意すべき。

- ・全世界、アジア地域等の各地域ごとのこれまでの開催動向。
- ・一般に展示会は市場のあるところで開催され、開催地をローテーションしている国際会議に比べ固定化する傾向にあるため、新規誘致が難しい側面がある。誘致ではなく、新たな展示会を育成することが需要の拡大となる。
- ・展示会の開催数や規模は、GDPと一定の相関関係にあり、その国の経済力（特に強みのある産業）に強く影響を受ける傾向にある。
- ・海外では展示会が契約を結ぶ商談の場ととらえられており、展示会に向けて新製品の開発を行っている企業もあるが、日本では必ずしもそうではない。この理由として、日本では実際の商談は商社を通じて行われているからとの指摘もある。
- ・展示会の需要は、その国の産業・経済力、ハードとしての施設規模（ロケーション、交通インフラを含む）、ソフトとして主催者の運営方針等が複雑に影響しており、その算定には不確定要素が大きい。
- ・国際会議は場所を変えて開催するため、誘致の成否が重要である。
- ・国際会議と展示会の共催が両者にとってメリットとなっている面がある。
- ・展示会が付随する国際会議、会議・セミナーが付随する展示会が増えている。

### (2) 推進すべき国際会議・展示会の類型

開催効果が高い国際会議・展示会について整理する際には以下の点に留意すべき。

- ・国際会議の誘致に向けては都市の国際競争力向上の観点。
- ・展示会の育成に向けては我が国経済の発展の観点。
- ・国際会議・展示会は、参加者同士の出会いの場を提供する機能を持つという観点。

### 3. 我が国のMICE施設の現状

近年アジア諸国ではMICE施設の整備が積極的に行われている一方で、我が国の主なMICE施設には、整備から一定の期間が経過し、施設が機能の面で陳腐化しているものや設備が更新の時期を迎えているものがある。また、我が国のMICE施設の現状については、国際的な施設の整備動向にも留意しつつ、各都市の施設の強み・弱みについて把握すべき。

なお、今後現状を整理する際には以下の点に留意すべき。

- ・大規模施設については国際的な比較では規模が劣る。
- ・大都市圏の施設については稼働率が高く追加需要に対応が困難な状態にあり、機会損失を招いている。
- ・国際会議・展示会の参加者等のニーズにより、特定の時期に開催が集中する。
- ・我が国では国際会議場と展示場を別々に整備することが一般的だったため、展示場であれば会議スペース、会議場であれば展示スペースが不足している施設がある。
- ・施設における通信設備や大規模改修の投資など、運営費で回収が困難なため実施できない施設がある。
- ・隣接している施設でなければ単一のイベントを一体的に運用する連携は困難である。

### 4. 国際会議・展示会の施設機能強化に関する公的関与のあり方

#### (1) 今後必要とされる国際会議・展示会の施設

我が国には大規模なMICE施設が不足しており世界トップクラスの水準に匹敵する大規模な施設が必要不可欠とする指摘がある一方で、大規模な施設の需要は実際にはそれほど多くなく、むしろ施設の機能や立地等、質の向上が重要とする指摘がある。各都市の既存施設の活用状況及び今後の需要見通しを踏まえ、追加的に必要な施設の規模・性能等についての検討を行うべき。

なお、具体的な検討の際には以下の点に留意すべき。

- ・施設そのものの性能だけではなく、交通アクセス性能等の立地特性等の観点
- ・MICEに必要な各種機能（会議場、展示場、ホテル、飲食施設及びアフターコンベンション等）が近接して利用可能となること
- ・既存施設の有効活用や各施設間の役割分担への配慮

#### (2) 施設整備に当たった課題

- ・海外のMICE施設では、稼働率が30%以下の展示場もあるが、会議場や展示場を一つの経済インフラととらえ、施設単体での採算性のみを追求しない考え方がある。
- ・大規模施設の整備はより高い効果（経済波及効果等）を生じる可能性がある一方で、vacancy riskが高まる。
- ・新規に大規模施設を整備した場合、既存の施設の需要に対して影響を与える可能性がある。
- ・MICE施設整備をする場合には、施設整備の財政的負担が大きく、民間事業者が単独で整備することは困難であると考えられる。
- ・MICE施設の管理・運営者もしくはMICEの主催者など、関係者によって施設の現状及び整備に対する認識が異なっている面がある。

#### (3) MICEの機能強化に向けた都市再生の推進

都心型MICEについては、都市再生を通じた都心における都市機能集積の一層の充実や施設間連携の強化を図ることにより、MICE施設としての機能強化を図る。

#### (4) 想定される機能強化への支援方法

- ・施設を整備する際の規制緩和、資金調達に対する工夫
- ・施設の整備により発生する周囲への経済波及効果を、施設整備・運営主体に還元する仕組みの工夫
- ・MICE施設を利用、運営する際の各種規制緩和や公共施設等の柔軟な利用を実現